

## 『千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録「100人の証言」』編集委員に聞く

• 2010年01月18日

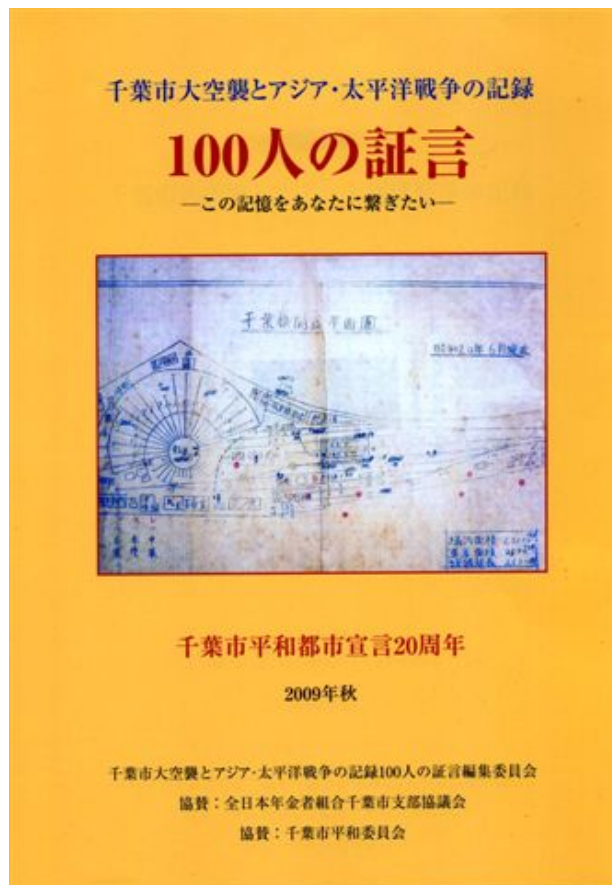
• 戦争・紛争

• 千葉

熊木秀夫

### (1)証言集出版のいきさつ

昨年12月『千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録・100人の証言』という本が千葉市在住の市民の手で出版された。A4サイズ、342頁に120人の証言がまとめられている。また、基金も寄せられ、3千部を発行し、1部千円という普及価格。読売、朝日、千葉日報、赤旗等で紹介されて、大きな反響を読んでいる。千葉市では市内全部の中学校図書館へ保存するために100部も購入してくれている。



この本の編集委員は、中村敏夫〔元千葉市議〕、白井進〔元銀行員、元大学教員〕、堤信一〔元民医連診療所事務長〕、千葉通子〔元千葉市議〕、伊藤章夫（元千葉県庁職員）、関康治（元石川島播磨重工業（株）勤務）の6人。彼らが1年余にわたって手記を集め、それをパソコンのワープロに打ちなおし、原作者に見せ、なお、かきたしたり、直して完成させた。

編集委員会事務局である伊藤さん、関さんは、共に私の古い友人であることから、この証言集の完成に取り組んでこられた経緯を、インタビューさせてもらった。



『100人の証言』編集事務局・伊藤章夫さん（撮影は同編集部の関康治さん）

**熊木:**この証言集には、64年以前に戦災に会い、今70歳を過ぎた人たちの胸に溢れる当時の生々しい体験と共に、日本がアジア大陸に侵略した戦争の加害者であり、被害者の、涙なくして読めない証言が含まれているのですが、どうして、それを集めようと思ったのですか。

**伊藤:**私は1942年生まれで、戦争・空襲体験はありません。今までの戦争・空襲体験の記録集は、自分たちが戦災の被害にあった体験が主に語られています。でもその前に、日本がアジア・太平洋（大陸）に侵略し、現地の人々を不幸にさせたこと、財産や生命を奪ったこと、また戦場で苦難の体験をしたことはあまり聞くことはありません。それでは戦争をしらない今の若い人へ、歴史の真実を伝えることはできない、と

思いました。

憲法9条を変えろと言う動きと『日本は侵略国家でない』と言う発言が強まった時でした。草の根の平和の力を示す時だと考えました。

熊木:伊藤さんは、県庁職員時代によく海外旅行を一人でやっていましたね。

伊藤:私は、現役時代の1982年に、国連軍縮特別総会に組合から代表を送る、というので参加させてもらったのです。ところがアメリカのレーガン大統領が入国を拒否したのですが、ドイツ、イギリスの代表の反核運動と交流する機会がありました。

それが始まりで、毎年海外へ行くようになったのです。中国、ベトナム、韓国、台湾、シンガポール、マレーシア、フィリピンなどを訪ねました。日本軍侵略の戦跡を自分の目で見ると旅でした。この時の経験が、私の考えの根底にあります。

千葉県千葉市に自衛隊訓練の下志津基地ができたとき、麻生さんご夫婦が再軍備に反対し、基地に自分の農地を売らない、とたたかいはじめたので、応援に行きました。

それで今も、自衛隊の基地の一部は、三角の楔が入ったように曲がって造られています。2004年に千葉市平和委員会が『野に咲く花のように』という麻生夫妻の反戦生活記録集を出版しました。その後ご主人は亡くなりました。

他の5人の編集委員は私よりも戦争や空襲の経験もある人達です。いずれも千葉市の全日本年金者組合と平和委員会に所属する人たちです。私達は同じ考えで、この証言集を作ることになったのです。

熊木:関さんも編集に参加していますが、どんなことをやったのですか。

関:2008年9月、日比谷公園で年金者組合の集会に参加した帰り道、たまたま一緒だった伊藤さんから、私の幼少時代の事を聞かれて、得意になって思い出を話しました。

伊藤さんは、小さい手帳に克明にメモを取っていました。その時は全然気にしていませんでした。何故かと言うと、彼は何処に行ってもメモをとる事は知っていましたから。

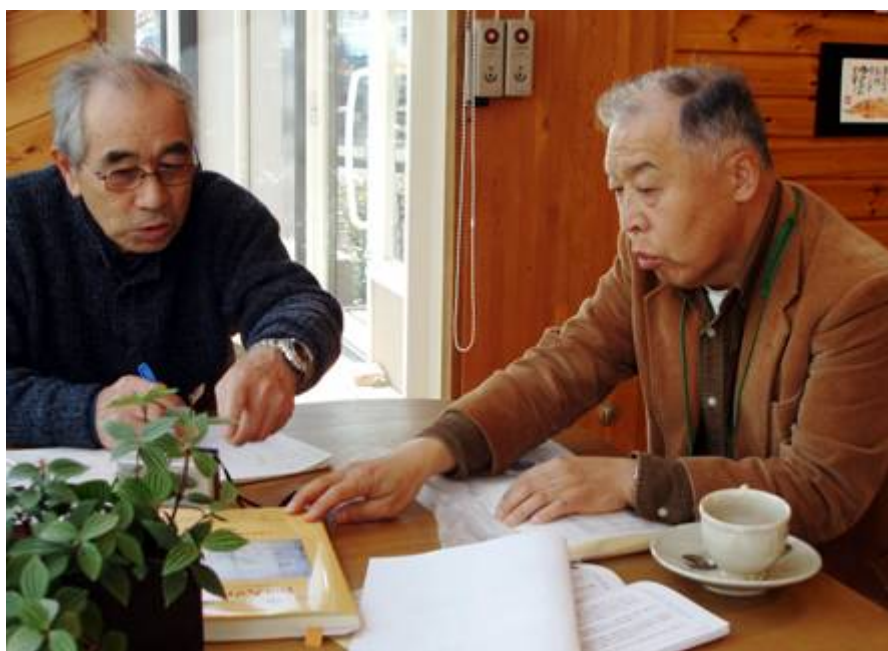
その夜、私が喋ったことが、文章になってメールで送られてきました。私は驚きました。こんな短時間に文章になるなんて。

その時は、のちの100人の証言集だとは、思ってもみませんでした。後で読み直してみるとおおざっぱで、かなりの部分が抜けている事に気がきました。それを手直し

する事にしましたが、後から後から思い出されて、最初の文章の3倍近い量になってしまい、それをまとめる事が出来ず。そのままになり約1年近く棚上げにしていました。

たまたま伊藤さん宅に行った時、原稿の山で、夜寝る時間を削って、毎日仕事をしている事を知りました。彼は、本来の環境の仕事とか、他にも、沢山の役職を持ちながら、この仕事をこなしていました。昼間は時間を作って、お年寄りの処を訪問し、説得し、聞き書きをする、それを短時間で文章化し確認を求め、多い時は7～8回も手直して完成させる毎日でした。

私はこの事に感動し、何かお手伝いをと申し入れました。パソコンを続けてやれる人が私だけで、伊藤さんは、手伝ってくれることを歓迎してくれました。初めは、最後までやることなど考えてもいませんでした。大変だったけど、良い仕事、自分の人生で意義のある仕事をさせてもらいました。



『100人の証言』編集事務局・伊藤章夫さん(右)と市民記者・熊木(左)(2010年1月10日、千葉県大網白里町、大里総合管理事務所にて)

## (2)千葉県の証言運動

熊木:【この証言集の普及のお願い】という文書にもありますが、この企画に賛同された方のなかには、官職に携わる人、例えば、千葉市長や教職に居られた方、JR.東日本の広報室長の名前が見られますね。

**伊藤:**そうです。いままでに、千葉県戦争体験を進める会が『戦争体験の記録』を1972年、73年、76年と発行したし、「千葉市空襲の記録」は1980年に出ています。それから既に30年も過ぎて、戦争体験した人はみな70歳を超え、今後その体験を伝えることが困難になることを、皆さんが自覚されたのではないかとおもいます。

体験者がまた別の体験者を紹介する、さらにもう一人の体験者を紹介してくださり、ぞくぞく、その体験記録が集まりましたね。私も多いときには6~7回くらい、同じ体験者を訪問して記録をとらせてもらいましたが、これほど皆さんが過去の戦争のために辛い思いをしていることをはじめて知りました。

祝辞や推薦をされている方の中には、現千葉市長、元朝日新聞社長、敬愛学園長、千葉大名誉教授、日本キリスト教団牧師、母親連絡会会長、平和委員会会長、千葉県9条の会代表の弁護士の方など。

一人ひとりが自分の人生で忘れることのできない体験を胸にしまっていたのを、吐き出すように書いています。それはごく小さな個人の体験で、つましい感じがするのですが、別の見方をするなら、歴史の中に生きた人びとの動きとして、長く歴史に残る文学作品である、とさえ思っています。

**熊木:**この本の目次を見ると、当時、僅か1歳、3歳だった方の手記が載っていますね。私はこれを読んで、どんな作家も書けない珠玉の名作だと感じました。それは曇りのない告白ですが、小さい時のことは、周りの人に聞かない限り分からないことがたくさんありますね。それをじっと胸の奥にしまいこんでいて、この機会にはきだしたというか、聞いてほしい、という気持ちが溢れていて、これだけでも、何かの集まりに紹介してあげたい、と思いました。

**伊藤:**従来の戦争体験では、被害者の体験が主に紹介されてきました。アジアの国々を訪ね、その地の人に、日本は戦争中にあなたの国の人たちに、人間として間違ったことをしてきた、自分は戦争体験者ではないが、日本人の一人として、申し訳ない、とあやまりました。

**熊木:**この手記の中に、中国戦線で、上官の命令は天皇の命令だといわれ、自分をころして中国の民間人や捕虜になった人に対して慙愧(ざんき)に耐えない振る舞いをしてきたことの告白がありますね。

戦争が終わって明日には日本へ戻るという途中で、誰からも看取られることなく、悪臭の湧く体をそのままに亡くなっていく様は、そこにいた人でなければ書けない、また、

涙なくして読めないものですね。

**伊藤:**今の話を聞いて、120人の人たちの証言は、太平洋戦争の空襲で亡くなったり、傷ついたり、幸いにも生き残った人たちも、戦場で同じ運命に晒された人たちへの冥福を祈る鎮魂歌の役割を果たし、今後この証言集をどう生かしていくか、ということが編集に携わった私たちの次の課題になりますね。証言集を見た人の中からも、もう少し書きたかった、もっと詳しく書きたい、同じ体験をしている人を知っているから書いてもらえるように働きかけたい、という手紙が届いているのです。

**熊木:**この証言のようなものは、残念ながら時間的制約からもう2度と書くことのできないものだと思います。65年前小学生で戦災に遭われた方たちのすべて自分の体験によってかかれています、その人たちも殆ど75歳を過ぎていますね。

**伊藤:**戦後に生まれ育った人の中にも戦争のことを身近に感じている人もいます。爆弾池で遊んだという人もいました。爆弾池というのは、爆弾が投下されて、大きな穴があいた後、雨水がたまって池になったところです。それでそこで遊んだ人たちが戦争を追憶して語ってくれる人もいました。

**熊木:**私のすんでいる川崎桜本の駄菓子屋さんをやっているおばさんがいるのですが、なぜ駄菓子屋をやっているかという、戦争中に腹いっぱいお菓子を食べたいと思いつけて駄菓子屋になったといっていました。お菓子だって配給制で、そのうちにそれも食べられなくなり、ところてんを昼飯代わりに食べたけど1時間もしないうちにお腹がすいてきてしまったことがありましたよ。

**伊藤:**昨年暮れに、この証言集が出版されたので、今年はおせることなく3千部を一人一人の方に読んでいただくこと、本に書かれている内容をどのように戦争を知らない人に伝えていくか、この証言集が役に立ってほしいと希望しています。この証言集を元にして、芝居やドラマなどにしてもらえないかと時々考えます。

**熊木:**この本の普及と合わせて、その内容の一部を語り部が小さな集まりでも紹介していけるといいですね。私も全部に目を通していませんが、読んだ部分を話したい、とおもったところがたくさんあります。それを抜書きして物語るのも一つの方法だと思います。

**伊藤:**今年8月には出版記念講演会を予定しています。

熊木:今は学校、特に高等学校で現代史を充分教える時間が少なくなっている一方で、日本が正しい戦争をやったのだ、戦前の日本は、アジア諸国の発展に貢献したのだ、という考えを、学校教育の中で広げようとする試みが進められています。そういうことを考える時、この証言集は時期をえたものですね。



以上、証言集出版の意図についてインタビューさせていただきました。不十分ですがこれで終わりにし、次に、手記の中の一部を紹介します。

### (3)証言集にこめられた、体験者たちの思い

この120人の証言者は、かつて一度は千葉市の大空襲に遭ったり、また遭わずとも見知らぬアジア大陸に駆り出されて、人間の魂をなくして、同じ人間であるにもかかわらず、不合理な理屈にさからうこともできず、上官の命令は、天皇の命令だと信じ込まされて、大陸の荒野に命を落としたり、傷ついて、ふるさとに戻ってきた人たちです。

そして結論として、戦争は、人の命をただ無駄にするだけでなく、日々の生活の中で作り上げてきた生活の糧も財宝も一瞬のうちになくしてしまう体験を共通のテーマとして、生き残った命を、これからは無駄にしない、それは自分だけでなく、家族や兄弟、そして、言葉も皮膚の色も違う人々であっても同じだという認識に、一度は立ったのです。

しかし、戦後の混乱は、その忘れがたい体験も再びひっくり返すような祖国日本の変容は、新たな矛盾を引き起こして、今に至っています。

一つの例を挙げましょう。

当時25歳、陸軍兵長で中国戦線へ向かったI. Kさんの体験記の抄録です。

「戦時中は、何を考えるか、どんな宗教を信じるか、どんな仲間と共通のテーマで社会活動をするか、将来のために何を勉強するか、厳しく制限されていた。

若い兄と妹が並んで歩いていると、警察官によびとめられ、交番に連行された上、長い説教をされた。戦地で兵隊さんたちが苦労しているこの非常時に、兄妹であろうと、ダラダラと一緒に並んで歩くことなどは、ふしだらで、不見識きわまる、といわれてしまい、弁明すらできなかった」

こんなばかげたことが、戦時中はごく当たり前にかかり通っていた。今では若い人た



ちが、人前で抱き合ったり、キスしたりするのを見ることは珍しくない。  
しかし、この時代に、生木も引き裂くようなことが、お上の命令で行われていたのだ。  
今の若い人たちがこれを知ったら、どんなに思うだろうか。男女が互いに愛し合い、  
協力して家庭をつくることのできない日本に再び戻ってほしくない、と誰もが思うだろう。  
これは過去のことだけだろうか。

戦争は個人では行わない。国家が国民に命令して起こるものだ。再びこの日本で戦争が起これば、少しの余裕もなく、一家が皆殺しされ、一つの大都会が一瞬にして消えていく。

核兵器廃絶のための運動は、この地球に生きるすべての生命を救う。原爆が三度この地球に落とされれば、やけただれた姿を後世に伝える余裕もなくなるだろう。  
そうさせないために、この証言集をすべての人が読んでほしい、と思う。

『千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録「100人の証言」』は次の連絡先に申し込んで下さい。

伊藤章夫 08053053739、akioito@w3.dion.ne.jp

千葉通子 08066163627

白井進 09093061583

年金者組合千葉支部協議会 0432253037

千葉市平和委員会 0432215107

郵便振込口座番号 00120-6-448970

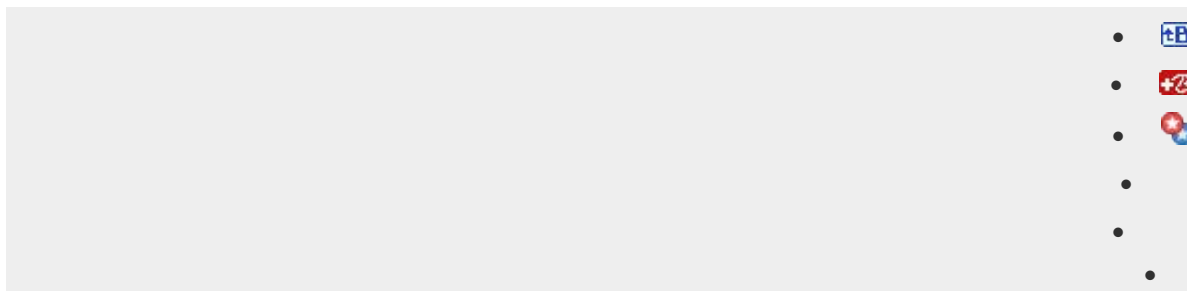
### 「戦争・紛争」カテゴリの最新記事

- [65年前の神戸空襲を考えるー戦闘能力の比較からー](#)
  - [横浜で元日本兵2人が戦争体験を証言](#)
- [番組「認罪 撫順戦犯管理所の6年」東京・新宿の映画館で上映](#)
- [『千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録「100人の証言」』編集委員に聞く](#)
  - [【ガザからの便り】命脈のトンネルをエジプトが破壊](#)

• [利用規定](#)

• 





## オススメ記事 4月19日～25日

市民記者ニュース代替サイトオープンについてのお知らせ

6月5日「市民記者懇談会 in 京都」開催のお知らせ

【映像】「舛添新党」結党記者会見(2010.4.23)

【映像】国民新・長谷川参院議員「民主が負けても合従連衡で政権維持」(2010.4.21)

【映像】宮本いちぞう元衆院議員「公明党と組むのは最後の手段」(2010.4.21)

【映像】作家・経済評論家 三橋貴明 「投票所に向かわせるコンテンツを」(2010.4.21)

【映像】大西ひろゆき・大阪市議会議員「大きな地方が、小さくて強い国家を支える」  
(2010.4.20)

【映像】金融庁亀井大臣記者会見(2010.4.20)

【映像】事業仕分け第2弾 公益法人にメス 配布資料付



[▲このページの上へ戻る](#)

- [JanJan とは](#)
- [Q & A](#)
- [個人情報保護方針](#)
- [ニュースに関するお問合せ](#)
- [会社概要](#)

JanJan に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。全ての内容は著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © JanJan. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.